

第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回全体会 議事概要

日 時 令和5年6月13日（火）13:30～15:30

場 所 B I Z新宿1階 多目的ホール

出席委員 小林委員、金委員、申委員、長谷部委員、毛受委員、ゼヤー委員、チャン委員、松田委員、
楊委員、李委員、江副委員、タイン委員、立川委員、陳委員、
原田委員、朴委員、センブ委員、井上委員、宗像委員、塚本委員、山口委員 21名

欠席委員 伊藤委員、郭委員、コチュ委員、叔委員、鈴木委員、ドゥラ委員、安藤委員、奥田委員、
ブサン委員、佐々木委員、守重委員 11名

1 開会

2 新宿区多文化共生実態調査について

事務局から新宿区多文化共生実態調査の概要について説明し、委員から意見をいただいた。

- ・日本人住民向け調査票の設問で、犯罪に関する選択肢が追加されている。センシティブな話であり、メディアが関心を持つところである。前回調査で犯罪はなかったのに、今回は犯罪が増えたと捉えられて報道される可能性もある。検討したほうがよい。
- ・外国人向け調査票の設問「困ること」で、選択肢が「区役所・出入国在留管理庁などの手続」となっている。区の調査なので「区役所」と「出入国在留管理庁」を分けてはどうか。
- ・外国人向け調査票の設問「日本人との付き合いが無いのはなぜですか」では、「近くに住む日本人」と特定したほうが、前の設問からのつながりがよいと思う。日本人調査票の場合でも同じように、「近所の外国人」と特定したほうがよいと思う。

3 これまでの提言と対応について

事務局からこれまでの提言と対応について説明し、委員から意見をいただいた。

- ・区の実態に関する資料を見て全体像が分かった。課題解決のためには行政職員の多文化共生に関する意識が大切と思う。
- ・外国人に日本語を学んでもらうだけでなく、日本人側がやさしい日本語を使うことで意識が変わると思う。障害者や高齢者と同じように、外国人には配慮が必要である。
- ・防災ワークショップはよい取組だと思う。参加者の感想などポジティブな意見があれば紹介していくとよい。

- ・外国人でも世代差があり、生活実態はケースバイケースで、考え方も異なっている。多文化共生まちづくり会議の委員に若い人がいても良いと思う。
- ・他区では外国人の起業を支援するスタートアップ事業を行っている。新宿区も外国人の創業や企業運営への支援を行うとよい。
- ・新1年生の保護者に対して多言語で通知が来た。他区では経験したことが無いので、新宿区は多文化共生社会であると感じた。
- ・文化交流の取組について、先日、大久保の五月まつりに子どもと参加した。外国の文化を体験して、すごく感動しました。

4 その他

(1) 外国人向け生活情報ホームページの見直し

事務局から外国人向け生活情報ホームページの見直しについて説明し、委員から意見をいただいた。

- ・ホームページに関して、日本語を学びたい外国人が、学びたい曜日、場所、時間帯、料金、レベルなどを入力して、最適ものが表示されると良いと思う。
- ・外国人コミュニティーや活動団体に関する情報があるとよい。
- ・上のグローバルナビにも「健康・医療」があり、下の目的から探すにも「健康・医療」がある。どちらに行けばよいか分からないと感じた。同じ情報に行くのかもしれないが、分かりやすくしてもよいと思った。
- ・よくある質問として「Q&A」があるとよいと思う。

(2) その他

5 閉会